

Oracle8 Workgroup Server for HP 9000 Servers and Workstations リリース・ノート

リリース 8.0.6

ORACLE®

Oracle8 Workgroup Server for HP 9000 Servers and Workstations
リリース・ノート リリース 8.0.6

部品番号: J01295-01

2000 年 3 月

原本名 : Oracle8 Release Note for HP 9000 Servers and Workstations

Release 8.0.6

原本部品番号 : A70111-01

Copyright © 1999, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

*オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

1 使用上の注意	1-1
リリース 8.0.6.0.0 製品セット	1-2
アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則	1-3
サポートする OS バージョン	1-4
Installer について前バージョンとの変更点	1-5
Default Install と Custom Install について	1-5
製品選択の階層について	1-5
Oracle インストール前の設定作業	1-6
インストールに関する注意事項	1-7
README.FIRST ファイル	1-7
Oracle Intelligent Agent のインストールについて	1-7
Oracle TNS および Naming Adapter Error について	1-7
Pro*COBOL について	1-8
製品の制限事項および既知の障害	1-9
Precompiler について	1-9
Migration Utility	1-9
HP-UX 11.0 リリースでの CDE スレッドの使用	1-10
Legato Storage Manager について	1-10
HP-UX 11.0 ではサポートされていない製品	1-10
ワードサイズの異なるシステムでのサーバーおよびクライアントの実行	1-10
Net8 OpenAPI のサポートについて	1-11

英語オンラインドキュメントの扱いについて	1-11
エクスポートのメッセージについて	1-12
デモンストレーションについて	1-12
共有ライブラリについて	1-12
Pro*COBOL について	1-12
Pro*C について	1-12
OCI について	1-13

使用上の注意

本リリース・ノートは Oracle8 Workgroup Server for HP 9000 Servers and Workstations リリース 8.0.6.0.0 製品セットを特に日本語環境で使用するにあたっての注意事項について解説しています。

『Oracle8 for HP 9000 Servers and Workstations (HP-UX 11.0) インストール・ガイド』と合わせてご利用ください。

また、製品メディア中の rdbms/doc/README.doc ファイルを必ずお読みください。

次の事項に関し説明します。

- リリース 8.0.6.0.0 製品セット
- アップグレード及びダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則
- サポートする OS バージョン
- Installer について前バージョンとの変更点
- Oracle インストール前の設定作業
- インストールについての注意事項
- 製品の制限事項および既知の障害

リリース 8.0.6.0.0 製品セット

製品

Oracle Unix Installer	4.0.3.0.0
Oracle On-Line Text Viewer	1.0.1.0.0
SQL*Plus	8.0.6.0.0
Oracle for HP9000 Servers and Workstations Documentation	8.0.6.0
Net8	8.0.6.0.0
Net8 Protocol Adapters	8.0.6.0.0
TCP/IP Protocol Adapter	8.0.6.0.0
LU62 Protocol Adapter	8.0.6.0. *1)
Client Software	8.0.6.0.0
Net8 External Naming Adapters	8.0.6.0.0
Migration Utility: Oracle7 to Oracle8	8.0.6.0.0
PL/SQL	8.0.6.0.0
Oracle8 (RDBMS)	8.0.6.0.0
Oracle Intelligent Agent	8.0.6.0.0
Oracle8 JDBC Drivers	8.0.6.0.0
JDBC Thin Driver	8.0.6.0.0
JDBC OCI Driver	8.0.6.0.0
Oracle Cartridges	8.0.6.0.0
Oracle ConText Cartridge	2.4.6.0.0
Precompilers	8.0.6.0.0
Pro*C/C++	8.0.6.0.0
Pro*FORTRAN	1.8.28.0.0
Pro*COBOL	1.8.28.0.0
Pro*COBOL	8.0.6.0.0
Oracle Names	8.0.6.0.0*3)
ORACLE NLS Libraries and Utilities	8.0.6.0.0*4)
ORACLE Core Libraries	8.0.6.0.0*4)
Oracle Server Manager	3.0.6.0.0*2)
Legato Storage Manager	5.5.0.0.0*2)*5)
Oracle Trace	4.0.0 *4)

備考

コンポーネントは、製品メディアに含まれる製品コンポーネントの一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

- *1) 日本ではサポートされません。
- *2) Oracle8 (RDBMS)と同時にインストールされます。
- *3) Net8 と同時にインストールされます。
- *4) インストレーション時に選択できるものではありません。
- *5) この製品は、Oracle Parallel Server を使用した環境ではサポートされていません。

アップグレードおよびダウングレード・スクリプトの新しいネーミング規則

Oracle8 リリース 8.0.6 では、アップグレードおよびダウングレード・スクリプトのネーミング規則が新しくなっています。

スクリプト名には、CAT*.SQL 形式を使用しません。新しいネーミング規則のスクリプトを使用すると、あるリリースから別のリリースへ直接移行することができます。

アップグレード用のスクリプトには U*.SQL 形式、ダウングレード用のスクリプトには D*.SQL 形式の名前が付いています。

次の 2 つの表に、アップグレードおよびダウングレード用の新しいスクリプト名を示します。

8.0.6 へアップグレードする対象	実行するスクリプト
8.0.3	U0800030.SQL
8.0.4	U0800040.SQL
8.0.5	U0800050.SQL

8.0.6 からダウングレードする対象	実行するスクリプト
8.0.3	D0800030.SQL
8.0.4	D0800040.SQL
8.0.5	D0800050.SQL

サポートする OS バージョン

対応 OS は、HP-UX 11.0 32-bit および 64-bit です。

オペレーション・システムとパッチ・レベルの要件については、『Oracle8 Server for HP 9000 Servers and Workstations (HP-UX 11.0)インストール・ガイド』の第 1 章を参照してください。

Installer について前バージョンとの変更点

Oracle8 リリース 8.0 の Installer は、以前のバージョンのものと比較してユーザー・インタフェースが変更されています。以下に Oracle8 リリース 8.0 の Installer で変更された箇所を説明します。

Default Install と Custom Install について

日本語のメッセージをインストールしたり、US7ASCII 以外のデータベース・キャラクタ・セットを使用するためには、「Install Type」画面にて“Custom Install”を選択してください。

製品選択の階層について

インストールする製品の選択が階層表示になりました(製品名の左にあるプラス記号(+)によって示されています)。

例えば Pro* シリーズプリコンパイラの各製品をインストールするには、まず「Precompiler」をダブルクリック(キャラクタ・モードでは「リターン」)し、そのうえで「Pro*C」など個々の製品を選択してください。

「Precompiler」だけを選択しても、Pro*C など各製品はインストールされません。

Oracle インストール前の設定作業

1. 現在の Oracle Installer は日本語環境では使用できません。日本語環境にインストールする場合、あらかじめ環境変数 NLS_LANG を設定解除してください。

【実行例（Cシェルの場合）】

```
% echo $NLS_LANG
Japanese_Japan.JA16EUC
% unsetenv NLS_LANG
```

【実行例（BシェルおよびKシェルの場合）】

```
$ echo "$NLS_LANG"
Japanese_Japan.JA16EUC
$ NLS_LANG =American_America.US7ASCII; export NLS_LANG
```

2. 環境変数 LANG を設定していると再リンク時にエラーになることがありますので、あらかじめ環境変数 LANG を設定解除してください。

【実行例（Cシェルの場合）】

```
% echo $LANG
.japanese
% unsetenv LANG
```

【実行例（BシェルおよびKシェルの場合）】

```
$ echo "$LANG"
.japanese
$ LANG=C; export LANG
```

インストールについての注意事項

Oracle をインストールする上で、既知の障害および注意事項について以下に説明します。

README.FIRST ファイル

このファイルには、リリース 8.0.6 の最新情報および制限事項が記述されています。Oracle Installer を起動すると、このファイルが表示されます。注意してお読みください。

Oracle Intelligent Agent のインストールについて

Oracle Intelligent Agent のインストール時には、「Relink All Executables」オプションを選択してください。

Oracle TNS および Naming Adapter Error について

「Relink All Executables?」画面にて、“NO”を選択した場合、`$ORACLE_HOME/orainst/install.log` ファイルに以下のようなエラーメッセージが出力されます。

```
Installed Protocol Adapters are: BEQ Protocol Adapter, IPC Protocol Adapter, TCP/IP Protocol Adapter, RAW Protocol Adapter, Error!!! Oracle TNS Naming Adapter not completely installed!, Adapter present in libnetwork.a, but missing from nnfgt.o..., Error!!! Oracle Naming Adapter not completely installed!, Adapter present in libnetwork.a, but missing from nnfgt.o..., Oracle Security Server Authentication Adapter
```

必ず、「Relink All Executables?」画面にて、“YES”を選択しインストールしてください。

Pro*COBOL について

COBOL/UX がインストールされている環境で、Pro*COBOL をインストールをすると、以下のようなエラーメッセージが出力されます。

```
O/S Error

Error during action 'Relinking Pro*COBOL executable'.

Command: make -f /ora806/app/oracle/product/8.0.6/precomp/lib/ins_precomp.mk
ORACLE_HOME=/ora806/app/oracle/product/8.0.6 EXENAME=rtsora relink

Linking rtsora

cob -o rtsora -xe "" /ora806/app/oracle/product/8.0.6/precomp/lib/cobsqlintf.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/scorept.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/sscoreed.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/rdbms/lib/kpudfo.o -L
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/ -lclntsh -lsql
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/ -lclntsh -lsql
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/nautab.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naet.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naet.o
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naedhs.o `cat
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/naldflgs` -lnetv2 -lnttcp -lnetwork -lncr -lnetv2
-lnttcp -lnetwork -lclient -lvsn -lcommon -lgeneric -lmm -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -
lcore4 -lnlsrtl3 -lnetv2 -lnttcp -lnetwork -lncr -lnetv2 -lnttcp -lnetwork -lclient -lvsn
-lcommonx -lgeneric -lpplsf -lpplsb -llextp -lepc -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lcore4 -
lnlsrtl3 -lclient -lvsn -lcommon -lgeneric -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3 -lcore4 -lnlsrtl3
`cat /ora806/app/oracle/product/8.0.6/lib/sysliblist` -lc -laio -lm

sh: cob: not found

***Error code 1

make: Fatal error: Command failed for target `rtsora'
```

これは、MicroFocus COBOL 用の実行モジュール“rtsora”を作成しようとしてエラーが発生しています。

MicroFocus COBOL を使用していない(COBOL/UX を使用している)場合は、“Igrone (無視)”を選択し、Oracle インストールを進めてください。

製品の制限事項および既知の障害

既知の障害および制限事項については、各製品ごとの doc ディレクトリ下のオンライン README ファイルを必ずお読みください。

オンライン README ファイルに記載以外の日本語環境での既知の障害および制限事項について以下に記述します。

Precompiler について

製品の demo プログラムおよびファイルは参考用です。そのままでは動作しないものがあります。

製品のソフトウェア要件の詳細については、『Oracle8 Server for HP 9000 Servers and Workstations (HP-UX 11.0) インストレーション・ガイド』を参照してください。

なお、サポート対象となるコンパイラのバージョンに関しては、コンパイラの提供ベンダーが上位互換を保証している場合は、下位バージョンのコンパイラに対して Precompiler がサポートしている範囲において、上位バージョンのコンパイラについてもサポート対象とします。

コンパイラの互換性については、コンパイラの提供ベンダーもしくはご購入元にお問い合わせください。

Migration Utility

- Migration Utility にて移行できる Oracle7 Server のリリースは 7.1.6、7.2.3、7.3.3、7.3.4 です。

但し、レプリケーション環境を使用しているデータベース（読出し専用スナップショットを除く）を移行する場合、必ず Oracle7 リリース 7.3.3 以上（リリース 7.3.4 を推奨）に移行してから、Oracle8 への移行を行ってください。

- データベース・キャラクタ・セットと NLS_LANG 環境変数のキャラクタ・セットが一致していないとデータベースを正常に移行できません。必ず同一のキャラクタ・セットを設定していることを確認してから Migration

Utility を起動してください。

- Migration Utility を起動するには、Oracle Installer からとコマンドラインからの 2 通りの方法がありますが、US7ASCII 以外のキャラクタ・セットのデータベースに対しては、Oracle Installer から起動すると正常動作しません。Migration Utility はコマンドラインから起動してください。

HP-UX 11.0 リリースでの CDE スレッドの使用

HP-UX 11.0 用の Oracle8.0.6 では、カーネル・スレッドを使用します。CDE スレッドを使用するカスタム・アプリケーションは、HP-UX 11.0 システム用の Oracle 8.0.6 をサポートしていません。

Legato Storage Manager について

レガートシステムズ社の Networker Server Software および Networker Client Software がインストールされている上に、Legato Storage Manager をインストールすることはできません。これらは、共存する事はできません。

HP-UX 11.0 ではサポートされていない製品

次の製品は、HP-UX 11.0 ではサポートされていません。

- SPX/IPX Protocol

ワードサイズの異なるシステムでのサーバーおよびクライアントの実行

Oracle は、64 ビットのクライアントおよびサーバーをサポートしています。このサポートによって、32 ビットでの 2GB アドレス制限はなくなりました。このため、SGA (システム・グローバル領域) および PGA (プログラム・グローバル領域) は、コンピュータ・システムの物理メモリーのみによって制限されます。

64 ビット・アドレスによって大容量のバッファ・キャッシュが構成できるようになったため、I/O 回数を減らして、パフォーマンスを改善できます。64 ビット・アドレスによって共有プールのサイズの上限がなくなるため、より多くのユーザーが Oracle にログインできます。

次に、正常に実行およびリンクのできる組合せを示します。

- 32 ビット・アプリケーションと 32 ビット Oracle Server
- 32 ビット・アプリケーションと 64 ビット Oracle Server
- 64 ビット・アプリケーションと 32 ビット Oracle Server
- 64 ビット・アプリケーションと 64 ビット Oracle Server

ワードサイズの異なる製品をインストールするには、次の手順に従います。

1. インストールする 32 ビット製品用の ORACLE_HOME を作成します。
2. インストールする 64 ビット製品用の ORACLE_HOME を、別に作成します。
3. 32 ビット用の ORACLE_HOME に、32 ビット製品をインストールします。
4. 別の Installer セッションを起動して、64 ビット用の ORACLE_HOME に 64 ビット製品をインストールします。
5. クライアントの 32 ビットまたは 64 ビット共有ライブラリを適切にポイントするように、環境変数 SHLIB_PATH を設定します。たとえば、32 ビット・アプリケーションを実行する場合は、32 ビット共有ライブラリをポイントするように環境変数 SHLIB_PATH を設定します。
6. 32 ビットまたは 64 ビットのターゲット・データベースをポイントするように、環境変数 TWO_TASK を設定します。たとえば、この環境変数が 64 ビット Oracle Server 8.0.6 をポイントするようにします。

Net8 OpenAPI のサポートについて

Net8 OpenAPI はサポート対象外です。

英語オンラインドキュメントの扱いについて

CD 媒体上の英語のドキュメントと同一のドキュメントが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

エクスポートのメッセージについて

以下のような日本語メッセージの表示に不具合があります。

「xxx」には、文字列が挿入されます。

エラー番号	誤	正
EXP-00214	表領域“xxx”をエクスポートして います	表“xxx”をエクスポートしています

デモンストレーションについて

すべての製品デモンストレーションには、ANSI C コンパイラが必要になります。

共有ライブラリについて

Pro*COBOL について

Oracle 社から提供されている以下の Make ファイルを使用して、共有ライブラリをリンクするためには、以下のように 27 行目を修正してください。

- \$ORACLE_HOME/precomp/demo/procob/demo_procob18.mk
- \$ORACLE_HOME/precomp/demo/procob2/demo_procob.mk

[誤]

```
build: $(COBS)
        $(COB) $(COBFLAGS) -o $(EXE) $(COBS) -L$(LIBHOME)
        $(COBSQLINTF) $(PRODLIBS)
```

[正]

```
build: $(COBS)
        $(COB) $(COBFLAGS) -o $(EXE) $(COBS) -L$(LIBHOME)
        $(COBSQLINTF) $(LIBCLNTSH)
```

Pro*C について

Oracle 社から提供されている以下の Make ファイルを使用して、共有ライブラリをリンクするためには、以下のように 31 行目を修正してください。

- \$ORACLE_HOME/precomp/demo/proc/demo_proc.mk

[誤]

```
build: $(OBJS)
$(CC) -o $(EXE) $(OBJS) -L$(LIBHOME) $(PROLDLIBS)
```

[正]

```
build: $(OBJS)
$(CC) -Wl,+n -o $(EXE) $(OBJS) -L$(LIBHOME) $(PROLDLIBS)
```

OCI について

Oracle 社から提供されている以下の Make ファイルを使用して、共有ライブラリをリンクするためには、以下のように 148 行目を修正してください。

- \$ORACLE_HOME/rdbms/demo/demo_rdbms.mk

[誤]

```
build: $(LIBCLNTSH) $(OBJS)
$(ECHO) $(CC) $(LDFLAGS) -o $(EXE) $(OBJS)
$(OCISHAREDLIBS)
```

[正]

```
build: $(LIBCLNTSH) $(OBJS)
$(ECHO) $(CC) $(LDFLAGS) -Wl,+n -o $(EXE) $(OBJS)
$(OCISHAREDLIBS)
```